

開成校新聞

発行 開成中等新聞局
発行責任者 宮崎 * * *
制作者 佐藤、真田

1/365 コマ

大吉 〇ハハヒレ
パレてもいい 笑ったもん勝ち

大吉 〇ハハヒレ
実は もう沼られてる

最近では恋御籤にはまっています。ウェブサイトでも恋御籤と調べると、的確な内容が出てきますので、是非ご覧ください。振り回されないように注意。

全校強歩、5年連続開催されず



校長 「クマ問題や働き方改革などで開催が難しい」

開成高校時代から続く全校強歩だが、2019年度以降開催されていない。本記事ではそんな開成の伝統行事である全校強歩がなぜ開催されなくなったのか、今後再開の見込みはあるのかについて取材した。

全校強歩とは2年に一度開催されていた全校生徒で真駒内から定山溪ダムまでの約20kmを歩くイベントである。

開成高校時代、数学科教諭だった宮田校長によ



▲強歩について語る宮田校長



▲過去の強歩の様子

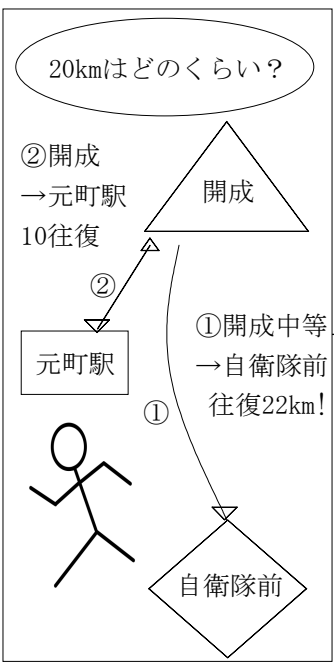
を二年おきで交互に実施していく予定だったが、同様にクマなどが原因で頻繁に中止されていた。そして授業日数との兼ね合いやクマ問題の深刻化、先生方の働き方改革など、様々な要素が影響した結果、開催することが難しくなったという。そのため、中等になってからは現在の最高学年である8期生のみとなった。

強歩を行う上で特に課題となる部分について「クマや天候の問題をクリアしていることはもちろんだが、強歩を行うにあたって欠かせないのは先生方の協力だ。生徒を先導する係、最後尾についていく係、水や食料の用意をする係、道に立ち生徒を見守る係など、強歩大会開催には沢山の人員が必要になる。また、先生方に限らず具合が悪くなった生徒やけが人の

処置を行う看護師を呼ぶ必要がある。大規模な行事であるため、様々なハードルを一つずつクリアしていかなければならない」と語った。

また、同じように強歩を行っている他校でも、生徒の安全の確保が難しいという理由で実施が難しくなってしまう例があるという。実際に去年北見北斗高校で行われた強行遠足では70kmのコースを歩いてしたが、途中で天候が悪化し落雷したことを受け、強行遠足をやめた方がいたので、この話が出てくる。

強歩の意義について「若いうちに困難に立ち向かうことで、将来役立つ



つ大きな力になると感じる。険しい山道を歩いていく中で、もう諦めようという気持ちと葛藤し、苦しさを乗り越えてゴールした時に、諦めないでよかったと言う達成感を得ることが出来る。その経験が、社会人になってから壁にぶつかった時にも、あの時あんなに頑張れたのだから、今回もきつと乗り越えられるという諦めない力になる。辛さ乗り越えて成長することこそ、この行事の本質だ」と当時の経験を振り返りながら話した。

強歩の今後については「学校の行事という枠の中で行うと様々な懸念点が出てきてしまうが、地域やCAS・SAなどで希望者を集めて行なう少人数の強歩であれば、開催は可能なのではないか」と語った。

復活を望む声多数

「強歩の伝統は受け継いでいきたい」

開成高校時代から赴任している澤谷明憲先生によると、当初の強歩は真駒内中央公園をスタート、支笏湖をゴールとした3・4kmのコースで構成されていた。しかし、開成中等へと変わった際中学生の体力を考慮し現在のエドウィン・ダン記念

公園から定山溪ダムまでのコースに変更になったという。

開成20周年誌『開成』によると、当時は『第14回聖火リレー全校強歩・マラソン』という名称であり、強歩が行われるようになったきっかけについては『東京オリンピック

』による、当時の『第14回聖火リレー全校強歩・マラソン』という名称であり、強歩が行われるようになったきっかけについては『東京オリンピック



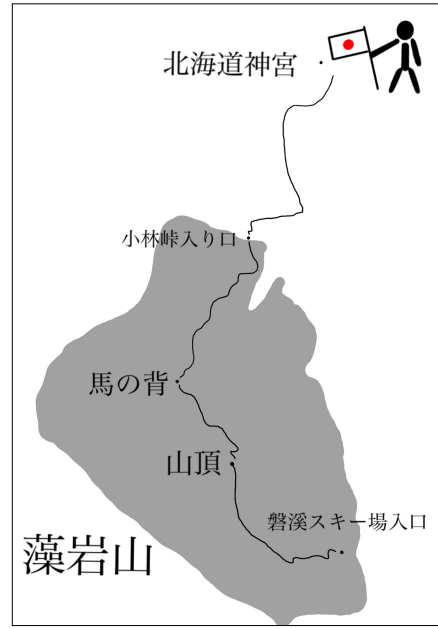
▲開成20周年誌『開成』と強歩について話す澤谷先生

クの聖火リレーを記念するとともに、初秋での野外で大気を満喫し、34kmもの長距離を走破・踏破することによって、強健な身体と旺盛な気力を育てて、明日への生活の糧とする。』と記載があった。

近年、学校が出している生徒向けのアンケート等では、生徒から強歩の再開を望む声が増えてきているという。また生徒だ

けでなくOB・OGからも復活が望まれている。今後の強歩の在り方について「強歩は【山アリ、空アリ、大地アリ】を体現している行事であり、同窓会の方等からも強歩を開成中等でも継続するようお願いされている。コースや規模などの形式を昔と同じようにできなくとも、強歩の伝統は受け継いでいきたい」と語った。

少し前まで新聞局では鉛筆削りが流行していましたが、ある局員がカッターで鉛筆を削っていたところを見た別の局員が真似して削ったことがきっかけです。鉛筆削りはほとんど広がっていき、5年生から1年生までみんなが鉛筆削りにハマっていききました。この影響に



アンテナ

二人の先生方へのインタビューを通して複数の課題が発覚したが、その一つである「強歩のコースへのクマ出没の危険性」を解決するために新たなコースを提

案する。左上の図は局員が作成した新たなコース案で、主に2つの工夫点がある。まず一つ目は校訓との関連性だ。澤谷先生へのインタビューにて記したとおり、既存の強歩のコースは我が

校の校訓を体現したものだ。新たなコースも、藻岩山を通過する事で校訓に登場する『山』を感じることができ、我が校の伝統を尊重したコースとなるだろう。二つ目はクマ

▲新しく考えたコース案

出没のリスクだ。既存のコースではクマ出没により生徒の安全性が確保できないなどの課題があるが、藻岩山に関しては過去6か月、札幌市内の山の中で最もクマの出没率が低い。また、藻岩山を通過するコースは全体の約3分の2であり、クマのリスクが現コースより低減できるだろう。

9期生以降に入学した生徒はまだ強歩を経験したことがない。開成を去る前に、是非伝統行事である強歩を経験したい。(5年佐藤)